

福祉の担い手に関するアンケート調査結果

地域福祉課

1 調査目的

超高齢社会、人口減少社会を迎え、今後福祉に関わる担い手の一層の不足が懸念されることから、県民の皆さんの意見や課題を把握し、今後の施策の参考とするため、ご意見・ご意向を伺いました。

2 調査対象など

調査対象: 県政モニター516人(うちインターネットモニター251人)

調査方法: 郵送及びインターネット

調査期間: 平成29年6月30日～7月21日

回収結果: 449人(回収率87.0%)

構成比はパーセントで表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出しています。

そのため、合計が100%にならない場合があります。

3 結果概要

○ 福祉の仕事に対するイメージについて

・「体力的にきつい」(79.3%)、「給与・賃金が低い」(67.3%)、「精神的にきつい」(61.9%)と仕事に対するマイナスイメージが強いが、「今後、重要度が増す」(76.4%)と、福祉の仕事に対する重要性も高く認識されている。

○ 学生に興味・関心をもってもらうための効果的な取組みについて

・「授業の一環でボランティア体験を行う」(67.9%)が最も高く、次いで「若手職員が学校を訪問して、福祉の仕事のやりがいや魅力を語る」(16.9%)が高かった。

○ 定年退職後等に福祉の仕事をする事について

・「アルバイトやパート等、自分のペースで働けるのなら考えてもよい」(41.2%)が最も高く、次いで「ボランティアとして協力したい」(17.4%)が高かった。

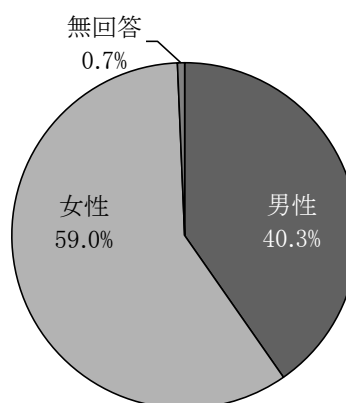
○ 福祉の担い手を増やす効果的な対策について

・「給与・賃金の改善」(82.4%)、「労働環境の改善」(70.4%)、「育児をしながら働ける環境の整備」(35.9%)の順に高くなっており、次いで資格取得の助成や学生に対する福祉施設体験の充実、奨学金制度等、若い世代に対する支援が高い結果となった。

4 回答者属性

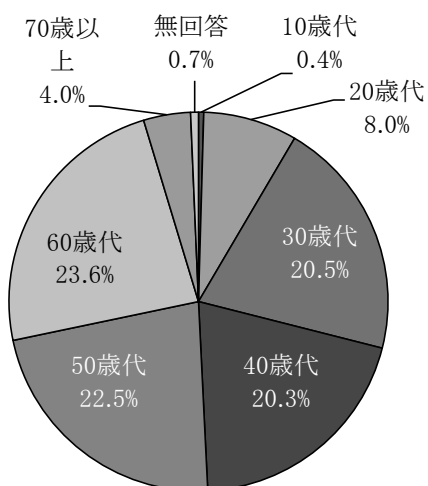
(1) 性別

	人数	割合
男性	181	40.3%
女性	265	59.0%
無回答	3	0.7%
計	449	100.0%



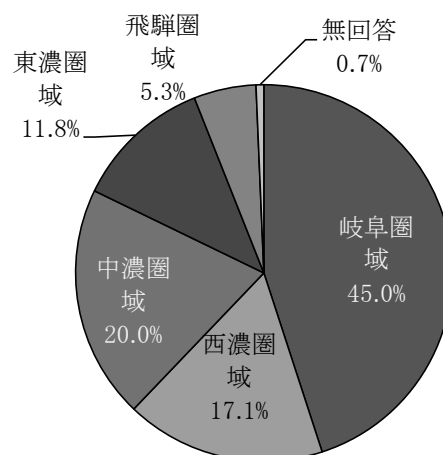
(2) 年代別

	人数	割合
10歳代	2	0.4%
20歳代	36	8.0%
30歳代	92	20.5%
40歳代	91	20.3%
50歳代	101	22.5%
60歳代	106	23.6%
70歳以上	18	4.0%
無回答	3	0.7%
計	449	100.0%



(3) 居住圏域別

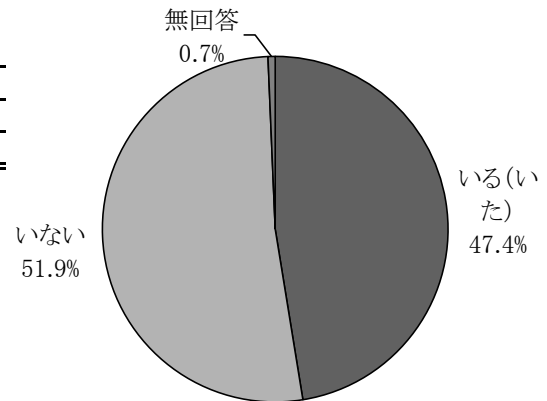
	人数	割合
岐阜圏域	202	45.0%
西濃圏域	77	17.1%
中濃圏域	90	20.0%
東濃圏域	53	11.8%
飛騨圏域	24	5.3%
無回答	3	0.7%
計	449	100.0%



5 調査結果

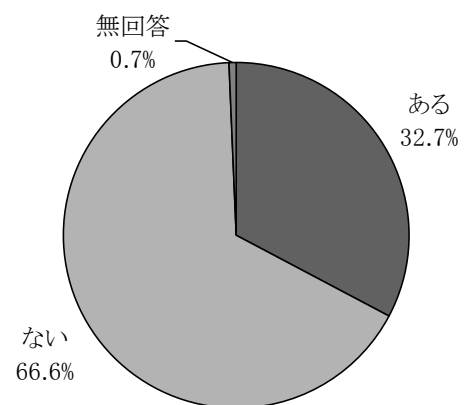
問1 あなたの身近(ご自身を含む)に、福祉施設等で働いている、又は働いていた人はいますか。

	人数	割合
いる(いた)	213	47.4%
いない	233	51.9%
無回答	3	0.7%
計	449	100.0%



問2 あなたは、これまでに福祉施設等で職場体験やボランティア活動などに参加した経験はありますか。

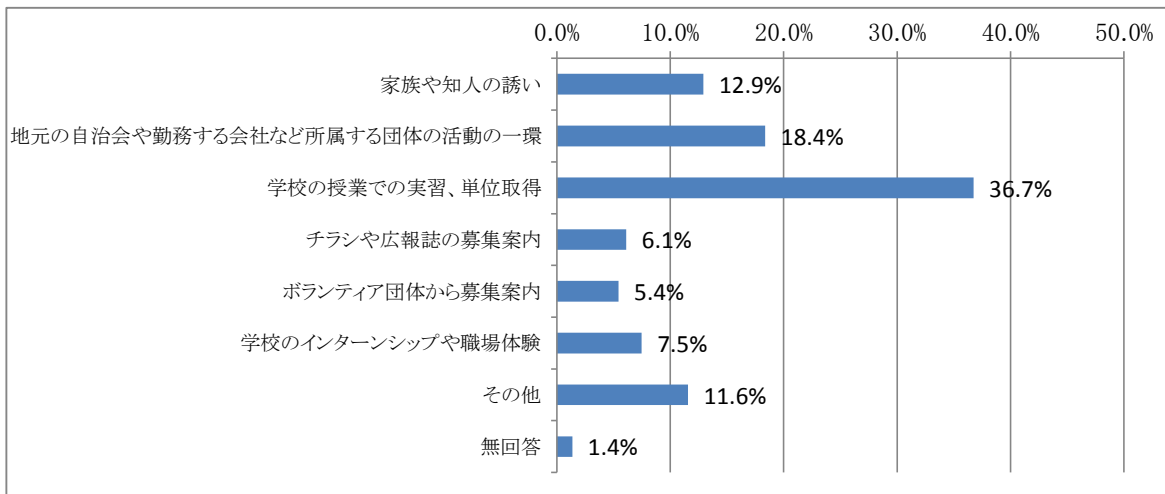
	人数	割合
ある	147	32.7%
ない	299	66.6%
無回答	3	0.7%
計	449	100.0%



問3 (問2で「ある」と答えた方) 参加するきっかけは何でしたか。

回答者 147 人

	回答数	割合
家族や知人の誘い	19	12.9%
地元の自治会や勤務する会社など所属する団体の活動の一環	27	18.4%
学校の授業での実習、単位取得	54	36.7%
チラシや広報誌の募集案内	9	6.1%
ボランティア団体から募集案内	8	5.4%
学校のインターンシップや職場体験	11	7.5%
その他	17	11.6%
無回答	2	1.4%
計	147	100.0%

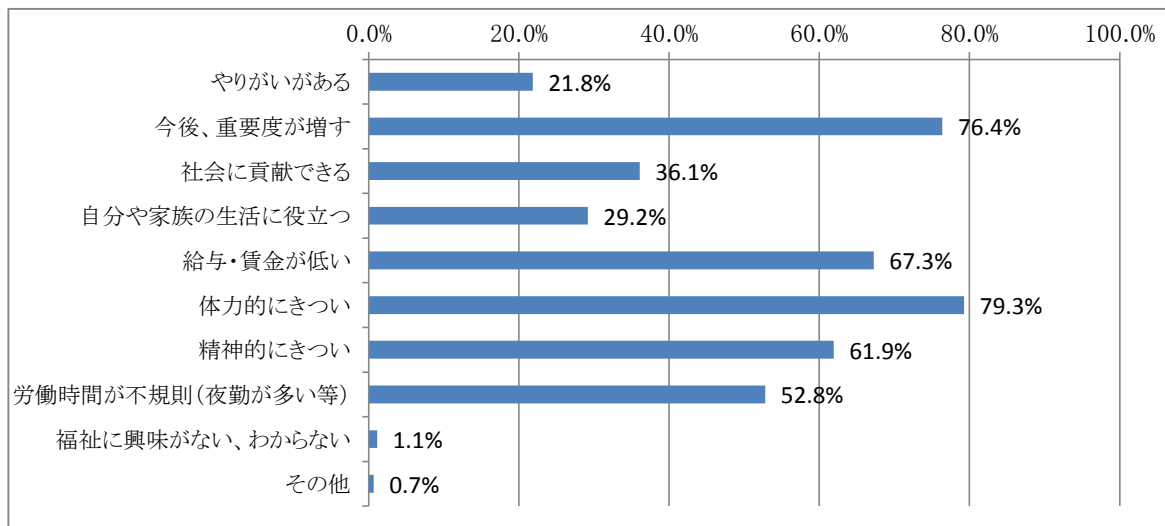


【その他の意見】

- ・息子が重度の障がいを持っており、福祉には特に関心があるため
- ・父が障がい者だったため
- ・音楽療法士としてできることをボランティアで活動
- ・退職した時に、何かボランティアをと思っていたら音訳講座の募集があり、一年通って資格をとり、今も音訳ボランティアをしています
- ・ヘルパーの資格取得のため
- ・近所に施設があったため 等

問4 あなたは福祉の仕事にどのようなイメージを持っていますか。
(複数回答) 回答者 449人

	回答数	割合
やりがいがある	98	21.8%
今後、重要度が増す	343	76.4%
社会に貢献できる	162	36.1%
自分や家族の生活に役立つ	131	29.2%
給与・賃金が低い	302	67.3%
体力的にきつい	356	79.3%
精神的にきつい	278	61.9%
労働時間が不規則(夜勤が多い等)	237	52.8%
福祉に興味がない、わからない	5	1.1%
その他	3	0.7%
計	1915	-

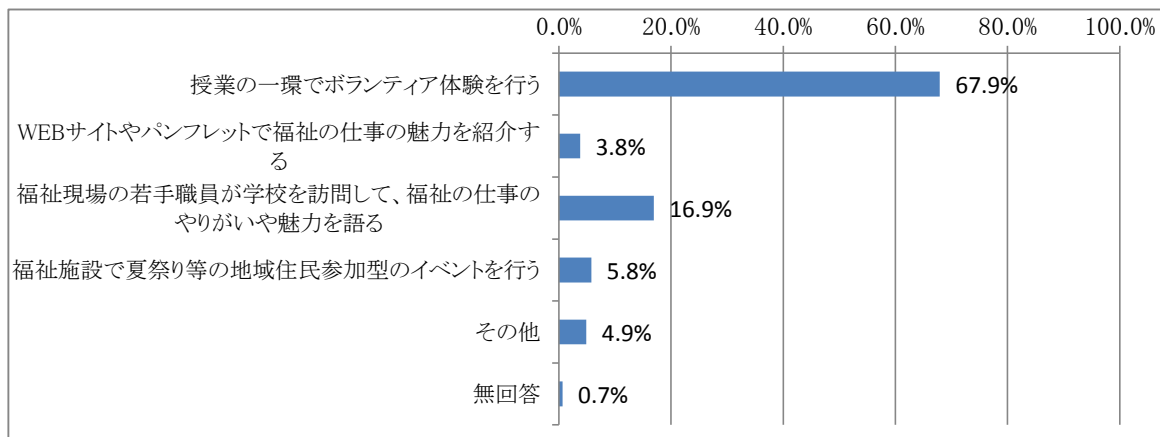


【その他の意見】

- ・頭が下がる
- ・主人が2年前まで(約2年)デイサービスでお世話になりました。大変親切でありがたかったです。
- ・施設内の人間関係が難しいとよく聞く
- ・人が少ない(不足している)
- ・社会的に弱い立場の方に寄り添う仕事
- ・福祉施設は民間が経営しているため利益が労働者に分配されない仕組みになっている。役員報酬を減らせば職員の給与増となり人員流出にはつながらない。行政が内容をチェックすべき。
- ・自分がその方の為にしてあげても、自分が満足しているだけで、はたして家族様と本人の心がどのようなのか、不安、心配
- ・仕事の内容に制限がなさそう 等

問5 大学生や中学生、高校生に、福祉の仕事に対する興味・関心を持ってもらうためには、どのような取り組みが効果的だと思いますか。

	回答数	割合
授業の一環でボランティア体験を行う	305	67.9%
WEBサイトやパンフレットで福祉の仕事の魅力を紹介する	17	3.8%
福祉現場の若手職員が学校を訪問して、福祉の仕事のやりがいや魅力を語る	76	16.9%
福祉施設で夏祭り等の地域住民参加型のイベントを行う	26	5.8%
その他	22	4.9%
無回答	3	0.7%
計	449	100.0%

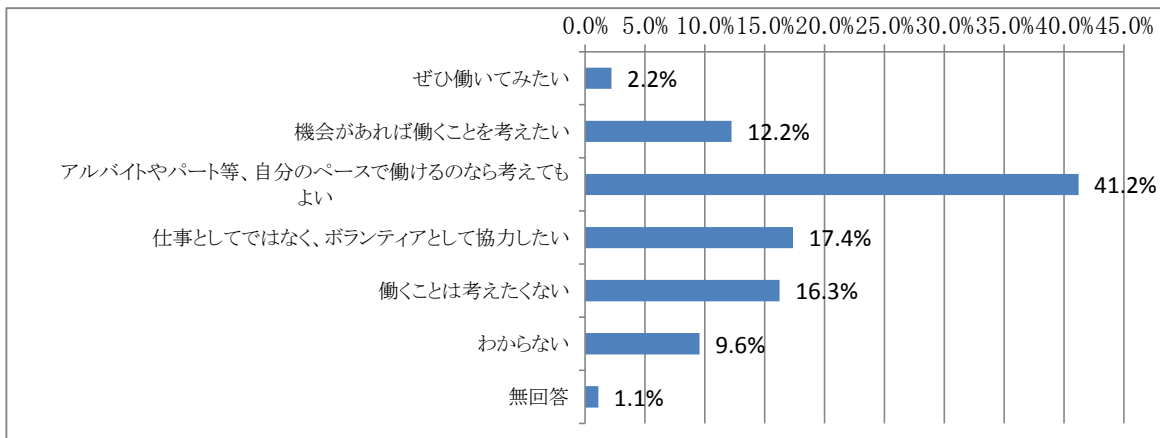


【その他の意見】

- ・現在、キツイ、賃金が安いイメージ(現実)があります。賃金を上げる方策を考えたほうが良いと思います。
- ・賃金を上げて職業としての社会的地位を上げる
- ・給与の引き上げ。興味関心がないわけではないと思うが、給与が安く大変なイメージがあるため、仕事として選びにくいのではないかと。
- ・ありのままの仕事内容を伝える必要がある。当然それに対する対価も重要。仕事の魅力ややりがいは熱心に取り組んだ結果付いてくるものである。
- ・福祉の仕事は若いうちから始めなくてもよいのでは。誰でもいつでも始められる、というふうには考えずには。
- ・大学入学資格として1年間の福祉活動
- ・経済的、人材的に無理のない仕組みが出来上がって周知されること。生涯の仕事として金銭的、精神的に満足できなければボランティア精神だけでは続きません
- ・小学生の頃からでも学べる機会になる(思いやりの心が育つ)
- ・実際福祉の現場の職員・ボランティアの住民と一緒に取り組む
- ・授業で、福祉の仕事をしている若手社員との交流会
- ・社会見学や、野外学習等で福祉施設に伺うと良いと思う。 等

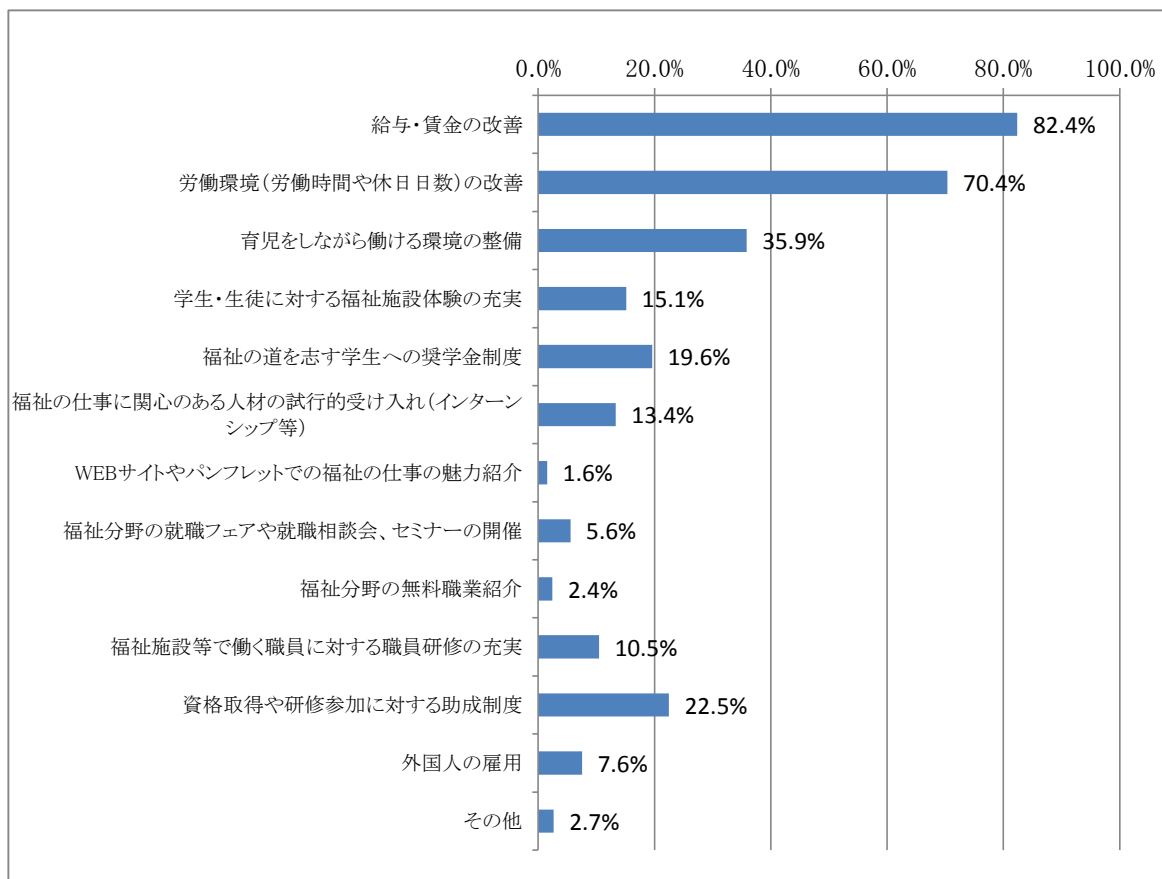
問6 定年退職後や育児、介護等がひと段落した後に、自分自身の生きがい、健康維持や地域貢献のために、福祉施設等で働く方が増えています。このことについて、あなたの考えに最も近いものを選んでください。

	回答数	割合
ぜひ働いてみたい	10	2.2%
機会があれば働くことを考えたい	55	12.2%
アルバイトやパート等、自分のペースで働けるのなら考えてもよい	185	41.2%
仕事としてではなく、ボランティアとして協力したい	78	17.4%
働くことは考えたくない	73	16.3%
わからない	43	9.6%
無回答	5	1.1%
計	449	100.0%



問7 福祉の担い手を増やすにはどのような対策が効果的だと思いますか。
(複数回答) 回答者 449人

	回答数	割合
給与・賃金の改善	370	82.4%
労働環境(労働時間や休日日数)の改善	316	70.4%
育児をしながら働ける環境の整備	161	35.9%
学生・生徒に対する福祉施設体験の充実	68	15.1%
福祉の道を志す学生への奨学金制度	88	19.6%
福祉の仕事に関心のある人材の試行的受け入れ(インターンシップ等)	60	13.4%
WEBサイトやパンフレットでの福祉の仕事の魅力紹介	7	1.6%
福祉分野の就職フェアや就職相談会、セミナーの開催	25	5.6%
福祉分野の無料職業紹介	11	2.4%
福祉施設等で働く職員に対する職員研修の充実	47	10.5%
資格取得や研修参加に対する助成制度	101	22.5%
外国人の雇用	34	7.6%
その他	12	2.7%
計	1300	-



【その他の意見】

- ・担い手の精神的フォロー
- ・ワンパターンな働き方の職場とされている福祉施設、もう少し多様な働き方を検討しては
- ・やはりキツイとか汚いというイメージを払拭し、重要度や魅力を伝えることが必要でしょう
- ・少年院の子達の更生プログラムの1つにする
- ・若い人が生涯の仕事としていけるような、賃金、労働条件の改善等が必要
- ・福祉の受け手の意識改革 等